

第46回 東北学校保健大会

平成25年8月6日・7日 岩手県盛岡市

主 題 「生涯を通じて、心豊かにたくましく 生きる力をほぐくむ健康教育の推進」
～進んで健康づくりに取り組み子どもの育成～

分科会報告

第3分科会 「性に関する指導」

【研究発表Ⅰ】

命を大切に児の育成

～性に関する指導案集の活用を図る～
北上市学校保健会の取り組みから

北上市立三子小学校 養護教諭 小原香代子

【研究内容・成果・課題】

①過年度作成した指導案集から「生命の尊重」領域を中心とし、指導資料・教材の作成と交流を行った。胎児の成長パネルや、胎児人形、妊婦体験リュックを作成し、授業実践につなげた。

②授業実践記録用紙を作成し、記録の集積と検討を行った。指導案集は、1～4年生で特に活用されていた。教材教具の使用状況から、授業者が必要とするものは何か、また発達段階に合った教材の選定が必要になったことが分かった。

③外部講師による授業を参観し、助産師と養護教諭それぞれの思いを交流した。

④校内で指導の推進を図るため、学年毎のファイリング、板書の写真を撮っておくとよい。授業内容は、学級通信や会報に掲載し、家庭や地域に広めていく。

【研究発表Ⅱ】

性に関する指導

～かけがえのない自分の人生を守るために～

青森県立天濤高等学校 養護教諭 三上 裕理

【ピアカウンセリングについて】

ピアカウンセリングは、自分自身で人生のゴール（自己実現）を見つけ、それを生き生きと実現しようとしていく能力を育てるため、身近で信頼できる仲間（ピア）から仲間へという視点で働きかけを行う健康教育の手法。仲間共感・共有しながら寄り添って、問題に正しく対処できるように自己決定や問題解決の能力を高めることを支援する活動。

【課題】

①大学生の言葉遣いについて、高校の教師から疑問が出た。ピアカウンセリングの目的に沿ったものであったが、教師の共通理解と、生徒への事前指導等の配慮が必要である。

②生徒の感想に「将来」という言葉が多く、自分の人生を大切にしようという姿勢が見られた。その気持ちを持ち続けられるよう働きかけの継続と、知識の定着を図りたい。

【協議の柱】

①学校全体で共通理解を図ること。
②家庭・地域との連携を促進し、保護者や地域の理解を得ること。
余談ですが、岩手県内で養護助教諭として勤務している男性の発言があり、フロアが盛り上がった瞬間がありました。
(金ヶ崎町立永岡小学校 佐藤 知恵)

平成25年度 全国養護教諭研究大会

平成25年8月8日・9日 山梨県甲府市

主 題 生きる力を育む健康教育の推進と養護教諭の役割
～学校・家庭・地域が連携した学校保健活動の実践～

記念講演

「愛と夢と勇気を育む健康な学校づくり」
WHOヘルスプロモーションの視点から」

順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科 教授 島内 憲夫

WHOの提案する健康な学校づくりは、健康的な生活習慣づくりを含む幅広いヘルスプロモーション活動の大事な5つの視点①健康な学校づくり施策②健康を支援する環境づくり③地域健康づくり活動の強化④個人技術の開発⑤ヘルスサービスの方向転換がある。「健康な学校づくり」とは、学校に関係するすべての人々が子ども達の健康を支援するために協力して活動を展開することである。

基調講演

「生きる力を育む健康教育の推進と養護教諭の役割」
～児童生徒の心身の健康問題への対応と養護教諭～

文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課健康教育企画室 健康教育調査官 岩崎 信子

学校保健安全法の改正を受け、養護教諭は、心身の健康教育の推進等を求められている。日進月歩する医学知識や技術の習得に努め専門職としての研鑽を積んでいくことが必要である。

シンポジウム

「生きる力を育む健康教育の推進と養護教諭の役割」
～学校・家庭・地域が連携した学校保健活動～

*山梨大学大学院 教授 中村 和彦
健やかな子どもを育むためのキー・ワードがある。統一性・目的・重要性の共通理解。構造化・地域ネットやモデル化。継続性・長期的な取り組み。学校や地域の特性を生かし、発達段階に応じて目指す子ども像や指標を設定、計画・実践していくことが重要である。

*千葉県市川市立学校保健会 評議員 小林 靖幸
子ども生活習慣病予防対策は、ヘルシースクール事業の一環として実施している学校と地域医療機関との連携による検診をすすめている。更に、子どもの生活習慣の問題点を明確化し、それをもとに充実した保健指導を展開している。

*熊本県熊本市墨小学校 校長 藤本 典子
養護教諭の役割として積極的に専門性を発揮し、教務主任・研究部長とともに心身の健康教育を推進し、教育課程の工夫、教科や学級活動への位置づけ、「心の教育」の校内研究、心を見つめる活動、家庭・地域との連携に取り組んでいる。

*群馬県教育委員会健康体育課 指導主事 山田 知利
中学校区の幼・小・中・高による地域合同学校保健委員会の組織づくりは、子どもの健康実態を縦断的に把握することが可能となり、問題解決のために非常に有効な取り組みである。

*山梨県富士河口湖町立河口湖北中学校養護教諭 小佐野登美子
発育発達を踏まえて子どものつまずきを的確に捉え、将来を見据えて支援していく体制づくりと、校内体制から地域体制へと発展しながら、子どもを地域ぐるみで支援することが重要性である。

(陸前高田市立米崎小学校 紺野洋子)